

「矢作川研究」第 10 号 発刊のご挨拶

豊田市矢作川研究所 所長代理
中 根 昇

読者の皆さまにおかれましては、常日頃研究所に対し多大なご支援とご協力を賜りましてありがとうございます。矢作川研究所所報「矢作川研究」は今回で記念すべき 10 号目の発刊となりました。これはひとえに、研究所をささえてくださいました関係者の皆様のご助力の賜と感謝しております。矢作川をとりまく近年の状況を見ますと、河川環境の指標で、これまでに数が減ってきた天然アユは 2004 年、2005 年と遡上量も多く、豊漁でした。しかし川の中には、従来より問題となっていた川底を覆う大型の藻、カワシオグサだけでなく、中国原産の二枚貝、カワヒバリガイが急激に大発生するようになりました。矢作川の環境について解決すべき問題は依然として多く残っています。昨年 4 月に 6 町村との合併により市域が大きく広がり、矢作川の中上流域が豊田市となりました。今年の 4 月からは上流域の川に調査範囲を広げ、河辺の環境についての知見を深めて、よりよい川づくりにつなげていければと考えております。研究所も発足 10 年が過ぎ、新たな気持ちで再出発しなければならないと思っております。豊田市矢作川研究所の活動目的は、矢作川の豊かな自然を護ることと、河川環境の改善を図ることです。こうした研究所の活動に関する皆様の日頃のご支援、ご協力に深く感謝を申し上げますとともに、なお一層のご指導をお願い申し上げます。